



毎年6月は「食育月間」、毎月19日は「食育の日」です

阿南市では、本市における食環境をさまざまな角度から見つめなおし、今後の望ましい食育推進のための方針を定めた第2次阿南市食育推進計画を策定し、食育に取り組んでいます。

食育とは、さまざまな経験を通じて「食」に関する知識と「食」を選ぶ力を身につけて、健全な食生活を実践することができる人を育てることをいいます。

今回は、平成29年度の食育推進事業で行った食育講演会についてご紹介します。

平成29年度は、阿南市内の子育てセンターや保育所において「かむことの大切さ」や「乳幼児期の食生活について」など食育に関するテーマについて食育講演会を21回開催しました。

保育所では、園庭での栽培活動や収穫された野菜を使ったクッキング等を通して、子どもたちの食への関心が高まるような保育を行っています。

また、家庭での食育の推進につなげるために、給食のサンプル展示や食に関する講演会の開催も行っています。平成29年度は保育所の保護者だけでなく、子育て支援センターに来ている親子を対象にした食育講演会も積極的に開催することができました。



(写真：講演会での様子)

平成30年度も引き続き、市全体で食育推進をすすめていきます。

問い合わせは 保健センター (☎22-1590) へ



「母校の校歌に 想うこと」



最近になって、自分の母校である橘小学校の校歌を目にする機会がありました。何げなくその歌詞の意味を、終戦後10数年という当時の社会環境と重ねながら思い起こすと、とても感慨

深いものがありました。



津乃峰町
丸山 満秋さん

に溶け込ませ、さりげなく伝えていきます。この校歌は1911年に創作されたものだが、1世紀以上の時を経た今もなお歌い継がれておりますが、そのメッセージは現代社会においてもとても重要なことではないかと思えます。

人は物事を判断するとき、無意識に自分の持つ「ものさし」に照らし合わせていきます。その「ものさし」の精度は、その人の持つ「良識」や「見識」からなる「人間力」に他なりません。物事の判断を迫られたとき、溢れる情報に惑わされることなく、自分の「ものさし」にしっかりと照らし合わせ、自分の意思で決定しその責任を負う。当たり前のことながら、人間としての大切な教訓を改めて確認できたように思います。

「一 橘湾にすみわたる水を心の鏡とし誠をかじるとのみつつ学びの海に進みなん二 大谷山のとこしえに高きをおのが心とし 行うべきを行いて よき日の本の民たらん」

短歌の中に学問の重要性や人生における行動規範等々、子どもたちの成長に必要なメッセージを地域の環境